

災害時の備え、できていますか。

災害時のトイレを知ろう

市民安全課 ☎85・6072



令和4年8月28日に行われた総合防災訓練

大地震などの災害が発生した時、避難所などの普段と異なる環境下では、衛生面などを気にしてトイレの使用を控えるため、水分補給や食事を制限し、栄養状態の悪化や脱水症状、エコノミークラス症候群などの健康被害を引き起こす危険性があります。

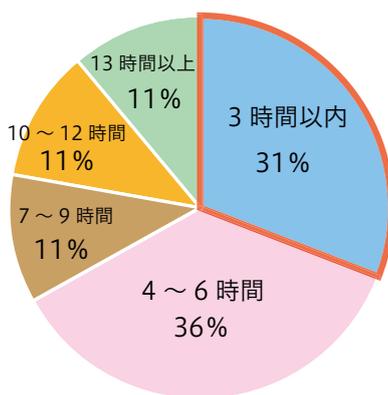
そのため、水や食料などの備蓄品はもちろん必要ですが、安心して使えるトイレの備えも必要です。

今回の特集では、命を守るための備えとして、災害時のトイレについて紹介します。

知っておきたいトイレ事情

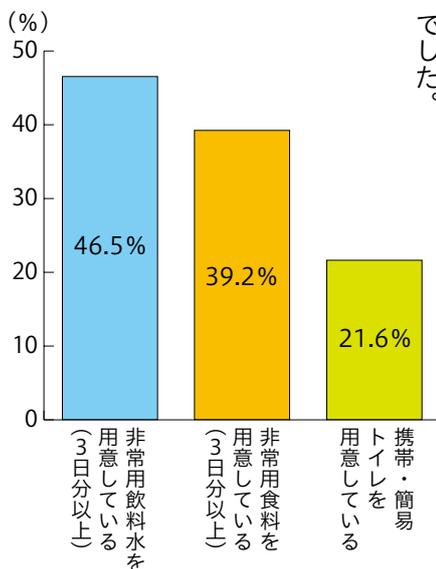
私たちは排泄を我慢することはできません。平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、発災から3時間以内に約3割の人がトイレに行きたくなるなど、避難所生活の中で困りごととして、トイレ事情が挙げられています。

発災から何時間で
トイレに行きたくなったのか



「東日本大震災3.11のトイレ」
調査：NPO法人日本トイレ研究所

令和3年に行われた県の「防災に関する意識調査」によると、家庭での災害対策として、携帯・簡易トイレを用意していると回答したのは、わずか21.6%でした。



2021年度「防災に関する意識調査」
調査：愛知県

災害用トイレに関する市の取り組み

市では、災害時における避難所のトイレを確保するため、各避難所に簡易組立トイレを、公共下水道区域内にある避難所にはマンホールトイレを順次整備しています。また、「いざ」という時に使えるよう、学校での防災学習や地域の防災訓練などで簡易トイレやマンホールトイレの設置・講習会を行うなど、災害時に備えた取り組みを行っています。

災害用トイレの設置・講習会



押沢台小学校で行われた防災学習の様子



地域で行われた防災訓練の様子

避難所で備蓄されている災害用トイレ



マンホールトイレ



簡易組立トイレ



車椅子対応
マンホールトイレ



ダンボール製
簡易組立トイレ

自宅で作る災害用トイレ

避難所へ行くことだけが避難ではありません。自宅の安全が確保できているのであれば、住み慣れた自宅での避難生活が可能です。下水道や排管設備が損壊し、水洗トイレが使用できない場合でも携帯トイレを備蓄しておくことで、自宅のトイレを使用することが出来ます。

トイレの平均的な使用回数は一日5回

携帯トイレは、排便袋・凝固剤・排泄後の処理袋がセットになっていることから、備えておくことが便利です。

内閣府のガイドラインによると、一日のトイレ回数は一人当たり平均5回とされているため、それを目安として各家庭に合わせた備蓄をしましょう。

トイレトーパーや懐中電灯、ウェットティッシュも一緒に用意しておくとういす。



携帯トイレ

携帯トイレの使い方

① 便器にたまった水で排便袋がぬれないよう、ポリ袋を便座の下に挟む



② 便座の上から排便袋を設置



③ 凝固剤を入れ、用を足す
(商品によって入れるタイミングが異なります)



④ 排便袋を取り出し、小さく縛る
(災害の状況に応じた方法で市が収集します)



凝固剤のほか、細かくちぎった新聞紙やペットシート、おむつなどで代用できます

備蓄のこつ「ローリングストック」

普段の食品を少し多めに買い置きしておき、賞味期限が古いものから消費し、消費した分を買い足すことで、常に一定量の食品が家庭で備蓄されている状態を保つための方法です。



防災のキホン

各家庭に合わせた準備を

備蓄の基本は水と食料です。最低でも3日分、理想は7日分を用意しておきましょう。

また、「水」や「食料」のほかにも、各家庭に合わせた備蓄が必要です。普段の生活の中で、何気なく使っているもののストックが十分にあるかなど、事前に確認しておきましょう。



非常用品の準備
(ID: 1026012)

きれいなトイレが、健康を守る

トイレを使用するのはあなただけではありません。東日本大震災では、数日間トイレが排泄物であふれかえったとの報告がありました。

災害時の避難生活では、高齢者や体の不自由な人、小さな子どもをはじめ、誰もが安心してトイレを使用できる衛生的な環境を整えることが健康を守るための重要なポイントとなります。

防災は日頃の準備が大切です。
今一度、自宅で安心して過ごすことができる備えをしましょう。



市ホームページ
(ID: 1025983)



市政だより